

検討中の川崎やすふみ政策案です。
ぜひご覧ください。

町長給与3割カット！

新型コロナウイルス感染症の収束の出口が見えるまで、自身の給与を3割カットし、その分を検査費用の一部とします。

全般 役場、議会の方針

- ・議員定数削減。議員時代から提案しておりますが、議員定数の削減についても議会と協力しながら取り組みます。
- ・企画広報調査の部署を作り、住民要望の迅速な把握を実施します。総合営業課。マーケティング。ブランディング。
- ・住民にとって柔軟な行政であるために、ダイナミックな人材の流動化と、部長制度を導入し、担当課の連携を推し進めます。民間登用も行います。
- ・町長室前にはアナログ目安箱を設置し、ネット上にもデジタル目安箱を設置します。窓口対応アンケートを含み改善点を知る。また、オンライン町長室を実施し、オンラインで、直接町長にアクセスできます。町長のタウンミーティングや、自治会座談会も開催。
- ・国や県や他市町との人事交流を行い、広い視野を持った人材育成で新しい考え方を導入。
- ・社会実験による行政の迅速な動きを可能とする。綾川

町版行政特区を選定。

- ・公共施設の広告利用や、一般利用、商用利用を推進。
- ・すべての事業に防災、教育、福祉への理解と対策をベースに置く。
- ・労務環境改善のため公契約条例の研究を行う。賃金増加に向けた政策。
- ・職員の中でデジタルに明るいものを集め、職務上で可能な分野からのデジタル推進を研究する。まずは業務フローチャートを見直しデジタル化すべき分野を確定させる。パッケージングソフトのみではなく、専用のツール等を用いた連携、業務軽減を図る。先進の自治体OSの標準化を提唱したい。空いた時間はこれまで以上の住民対応に従事。

子育て教育 すべての政策の軸となり綾川町の未来を創る

- ・通学路の安全対策を徹底します。
- ・デジタルを活用した学びの保証。病気、不登校、災害、距離等。タブレット端末の常時持ち帰り。
- ・遠隔授業の積極的導入による、教師不足問題対策、アクティブラーニング対策、姉妹町、提携都市との連携授業などを検討。
- ・ブラック校則問題 中学校生徒会に調査研究してもらいフィードバック。オンラインで小学校の生徒とも協議。
- ・不登校の人数は学校の諸問題の重要な数字と思われる。総合相談所を設置検討。
- ・地元愛を高めるため帰って来られる、ふるさと教育の強

化。帰属意識の醸成。

・インターネット社会の新たないじめに対応した倫理教育の強化。

・女子サッカーチームと地域振興を見据えた連携を行なっていく。中学生の部活動などを推進して、文化醸成を進めていく。

・子育て超支援制度 綾川町で18歳まで在住中の給付金を支給検討。各種お祝い金制度。

・教育のDX化によるIT技能や論理思考に強い人材育成。

・現在実施している綾川町奨学金半額免除制度を、同条件にて全額免除とする。

・学校開放の町営化。学校の公園化検討。

・学校と塾の連携事業。

・行政、学校、PTAの密接な連携連絡。

・学校施設修繕計画の遂行。陶小学校および滝宮小学校など、順次実施。

・学校等施設間交流の推進。

・学校への司書やソーシャルワーカー等の追加配置。

・放課後児童クラブの充実。障害児の対応。

・通園バスの検討 親の電車通勤との連携。

・部活動バス検討。

・保育士の待遇改善と人員確保。雇用条件の優遇措置で保育士の人数を増やし、保育時間の延長や一時保育の充実を目指します。こども園以外の選択肢を増やし、多様なニーズに応えます。

・給食の質の向上。

コロナ対策 コロナ時代を乗り切り前に進む

- ・各種の事業所支援を、十分に聞き取りながら進める。
- ・情報提供に注力し、ワクチン接種は迅速に接種可能な対応を行う。10代への接種推進については要検討。接種証明、陰性証明を可能な限り参照可能とする。証明は入場緩和等のポストコロナに活用。分断等を生む恐れがあるため過度な推進策は取らない。
- ・単純な禁止から、withコロナの活動重視へ。

経済農業観光 地場産業を中心としたワクワクの町

- ・町内事業者への入札加算条件導入。町内企業を育てる。
- ・交流人口、関係人口を増やす取り組みを進める。
- ・大規模農家から小規模農家が混在する綾川町の農業を力強く推進し、ハード、ソフト両面から支援。DX支援。
- ・体験型のエリア支援として空港周辺を自然アート特区とする。
- ・空港を活用した「東京に近い町」を宣言し、交流人口の増加とビジネス拠点を空港周辺に誘致。
- ・生産物の生産補償制度(収入保険の補助)と緊急借入利子補給(その他の町単補助を受けていない設備の借り入れに対して)を検討。大規模をはじめ、小規模農家の支援にも取り組む。
- ・薬草生産やオーガニック等の高付加価値の農業支援。

町内産オーガニック給食の検討。生産希望者等のニーズ調査を行う。

- ・農家民泊や、観光農園などの農業体験施設の充実。
- ・ゲノム編集農産物について農業試験場や農経高校、大学と連携して安全性の検証。
- ・綾川町産農産物のブランド化(主基ブランドの確立)。
- ・グランドカバー(長期的な防草対策 ムカデ芝、防草シート等、ウッドチップ、バンブーチップ)による草刈り負担軽減を目指した支援策。
- ・持続可能な農業へ向け、施設更新に対する支援。
- ・大規模農業へのこれまでどおりの支援と、小規模兼業農家への支援による耕作放棄地抑制作戦を検討。
- ・戦略的な政策道路の設定。綾川町の道グランドデザインを宣言。歩道整備、路肩拡張。住民の安心安全と地区別の住宅開発区域の拡大を同時に実現。
- ・SDGsに対応した新しいビジネス対応を小規模企業者からすすめる。対応事業者への支援策を検討。
- ・豊かな自然を活用した、体験型観光施設の充実を目指し、タツタの森や、高鉢山、滝宮公園、高山航空公園などをリニューアル(一部大型遊具の設置)。長柄ダム周辺の自然公園。
- ・都市公園整備や開発計画へのグリーン化支援制度の創設。グリーンチェーン。
- ・現代の藩札。デジタル地域通貨、デジタル商品券の発行。町民全員に専用コード発行。および同アプリを利用した各種プッシュ情報配信(町の情報、防災・防犯、イベント等々)。商工会員のうち、町内に事業所のある小規模事業者や、綾川町内での決算(分離決算含む)を実施している事業所は使用料無料。それ以外は手数料徴収。キャッシュレス決済の推進。(スッキー SUKKY)

- ・ふるさと納税とともにガバメントクラウドファンディングを立ち上げ、積極的な個別融資支援を得る。民間利用もすすめる。
- ・ロードバイクのサイクリングスポット整備。自転車ラックの設置。
- ・トレイルランニングコースの整備。
- ・創業塾による起業支援と企業誘致を行う。開業前から開業以降もサポート。
- ・学生における経済効果と労働力確保のための電車等の公共交通沿線の学生寮の建設誘致(空家活用との連携)。
- ・讃岐うどん発祥の地、うどん町のPR。道の駅周辺改革。体験型へ。水車。
- ・林業再生、豊かな山、水資源保護に向けて検討。

福祉 安心の町

- ・現地視察から学ぶ障害者支援。
- ・各種の問題(引きこもりや民間クレーム等含めて)の総合相談を専門職として設置検討。
- ・医療的ケア児を支えるため独自の支援協議会で検討。現状把握を進める。災害時対策を防災計画に入れる
- ・産後ケアとしてこんにちは赤ちゃんプレゼント事業を実施。おむつ等を配り面会をすすめる。
- ・高齢化社会に対応した地域交通の見直し。2キロ圏内の日常の足の確保調査。町営バスとデマンドタクシーの融合による家の玄関からバス停までの足を確保。door to バス停。路線バスの集約&便数増加。日祝運行。通

学利用。

- ・自動運転公共交通の研究。
- ・高齢者向けスマホ・ICT教室の推進。
- ・イーワ配送。スマホ注文でもっと便利に。
- ・病院や老健、小規模多機能、特養施設などの施設・機能の維持。

住民生活 人口増加

- ・綾川の魅力を次の世代にしっかりと引き継いでいく。
- ・自然環境、生活環境を維持していく。
- ・バイオマスメタン燃料の研究。畜産廃棄物利用。
- ・踏切の安全対策として鉄道会社への支援を検討。
- ・簡易水道について町と地元で情報共有を行う。オンラインセンサーの設置。水道接続検討。
- ・残土処分や水資源の保護などに対して自然環境保護条例を検討。町への報告を義務付け調査権限を持つ。
- ・情報公開を進める。各種審議会の報告や、結果などを原則公開し、討論材料として住民に周知する。オンラインアーカイブ化。
- ・空き家対策として不動産事業者に対する情報提供協定の締結もしくは委託事業化。空き家の積極的なマッチング事業。ニーズからの空き家対策。
- ・リフォームモデル事業による空き家リフォームの推進。
- ・空き家解体補助を実施。対象は検討中。
- ・道路パトロール事業の継続とDXによる住民通報の連携
- ・再生可能エネルギーへの取り組みをすすめる。町によ

る小水力発電の実施や、町施設へのマイクロ水力発電の設置。バイオマス利用。

- ・行政効率化による住民対応力の向上。
- ・リユースによるごみ減量。町による粗大ごみのリユース事業を検討。
- ・ペット譲渡会の開催および講習会の開催。
- ・外国人に優しい町づくり。
- ・新築補助100万円の対象に18歳未満の子供がいる場合は年齢制限を撤廃。

コミュニティ 防災

- ・既存自治会と、地区に網掛けした未加入者を向けにしたコミュニティを新設。防災関係をコミュニティに移行。町職による防災担当の地区への配置。雇用契約の更新を検討。
- ・訓練への防災士参加を要請する。職員の防災士資格取得を推進する。災害時看護師等ボランティア、防災士、消防団との連携を検討。
- ・各施設の巡回認証事業実施。DX活用して避難経路の指示。高齢者福祉との連携を検討。要援護者支援。
- ・防災対応として本庁舎の建て替えを検討。積立を実施。住民にとって利便性のある形を研究。
- ・火災防災対策としてインターネット文字放送の追加実施と、防災無線との連携。町民アプリ。
- ・消防団経験と防災士の知識を生かした防災対策。職員、住民の防災士資格取得推進。
- ・水難事故撲滅へむけてため池への救命用具及び事故防止施設配置。命を守る看板事業を行う。

- ・スマホを持っていない世帯に対して端末を貸与(台数制限あり)。さらに仮称綾川SIM(低速データSIM)を低価格(月額300円程度)で提供。情報格差の是正。
- ・洪水対策として河川内の雑木や土砂を除去する綾川河床整備の推進。
- ・街灯増加事業。
- ・町内ライブカメラの設置。河川監視カメラ等の設置。水位センサー設置。
- ・時間指定の移動式期日前投票所を山間部の集会所等に設置。

綾川スーパーファーム構想 農業文化観光の融合

綾川町には県立農業経営高校や香川県農業試験場があります。これに追加して農業大学等の誘致と観光農園を整備します。すべての施設で共用とし連携を強めます。農業系の雇用の場としても活用し、農業の企業化を進めます。出口戦略として、オーガニックなどの高付加価値商品の増産に努め、給食での積極活用を進めます。

また、観光農園では体験型観光を実施して、これまで県外に出て行ってしまっていた宿泊客を香川県内に留め置くことで香川県全域での結びつきを強め、観光の面でも他市町や県との連携を強めます。また、農業者の雇用の場としても提供できます。

宿泊先は、町内では県事業である農家民泊や、町内キャンプ場との連携も進めます。

ブランド化としては、大正天皇大嘗祭で使用された主基齋田があることから、この主基をブランとして活かしていきたいと考えています。

この構想の実現により安心安全の食料供給と、しっかりと生活のできる雇用を確立し、観光農園では地元の人にも余暇を楽しむことができます。また、税收増は住民生活をより豊かにします。

大学等ではバイオテクノロジーの開発に取り組み、新たな農業や新たなテクノロジーによる町の発展と人材の集積に努めます。

更には県内の大型河川では珍しい常時水が流れる綾川。この水車をからできたのが讃岐うどん。藤井けん前町長が確立した讃岐うどん発祥の地として、うどん体験でまさしく農業、観光、文化を一緒に体験できます。

昭和ニュータウン構想

国道32号線への接続と旧国道32号線を含む東西南北の道路拡張を行い、住宅等の開発可能区域を拡大する。避難経路拡大や消防車等の侵入を容易にし防災面の強化も図る。同時に路肩の拡大や歩道の設置も進めて交通安全に配慮した地域となります。

開発区域は5年ごとに規制し、一過的な開発ではなく、継続的な開発を目指します。

この構想の実現により、問題なく家を建てられるようになり、現役世代人口の増加で、周辺の店舗も復活し、誰もが住みやすい町となる。継続的な開発で、世代の循環も起き、地域の継続性が増します。
町道グランドライン計画も同時実行

デジタル商品券構想

既存の商品券をデジタル(スマートフォンアプリ)に置き換えます。アプリの使用方法は地区公民館等で講習会を開きます。これによりこれまで多額の経費が掛かっていた商品券発行の費用を抑え、住民への還元額を増やします。また、町による各種の給付や報奨などもこれで支払います。また専用の町民カードを発行するので、アプリを使わなくても使用できます。

さらに店舗ごとの情報発信も可能で、綾川町からの情報も入ってきます。防災無線による放送も文字データで同時配信します。難聴の方や盲目や弱視の方も安心です。

またコロナで大変な時ですので、初回は綾川町から1万円分のボーナスポイントが配布されます。ぜひ活用して便利さを実感してください。

また、このアプリを利用して、町への問い合わせも簡単にできるようにします。予約制ですが町長ともオンラインで面会できるデジタル町長室も設置します。

最終的には地域通貨として、町内の経済活性化を促し、町外とも連携して顧客を引き込み更なる経済発展を目指します。